

平成 24 年度 お城を中心としたまちづくり懇話会 会議録

日時 平成 25 年 1 月 31 日 (木)

13 時 30 分から 15 時 00 分

場所 もりおか歴史文化館 研修室

1. 開会
2. あいさつ
3. 意見交換

【説明】

■計画に位置付けられた施策の実施状況について (説明者：高橋技師)

【意見交換】

座長：ありがとうございます。それでは、今のところで質問、ご意見など何かありますでしょうか。

坂本委員：資料 2 で鶴ヶ池・亀ヶ池の水質改善について、事業実施となっているが、具体的にどのように進めているのでしょうか。

事務局：これはオゾンを合せて発生しながら泥のヘドロの状態を改善していくという施設を設置させていただいております。ところが、なかなか目に見えた、要は透明度が上がるというような成果がなかなか見られてございません。手がけた業者さんのお話を聞けば、「池の中に入れば足元の状況がかってヘドロの状態から少しは固まってきている」、「少し汚泥の状況が良くなってきている」という話を聞く事とか、東大通りからは「夏場における臭いの苦情がなくなった」という話を聞いていますので、若干の効果はあるのかなと思います。いずれ見目の状況では、なかなかきれいになったなという状況は見られていないという現実がございます。

一番は中津川からの取水の量が十分に確保出来てないというのが、原因かと思っております。国交省さんが管理している水を分けていただいているという関係があつて、国交省さんの方には、「概ね 4 日間位で 2 つの池の水が全体的に入れ替わるという位の水の量を下さい」と了解をいただいておりますが、実際御覧になっている方がいれば分かると思うんですが、常時水が池の方に供給されている状況にはなっていないという事と、そもそも出ている状況でも国交省さんにお話ししている量に達していないということで、東警察署を建てる際の経路を若干改善したということが、裏目に出ているという部分も場合によってはあるのかなと思います。

いずれ取水量を増やすという策をまず一つは考えたいなと思っていました。

あとは、活用というよりは見た目、いずれきれいな状況を今よりは作っていききたい。

かつてのお城の堀という位置づけになっておりますので、そういった状況をいくらかでも再現・復元するような形を目指していきたいという考えでありました。

座長：以前からこの鶴亀問題は議題に出ていました。ただ実感としてはやっぱりあまり変わらないという印象があります。

坂本委員：取水口から鶴ヶ池を通して中津川に行くのは目に見えるんですけど、亀ヶ池の方に行く場合に、ちゃんと下をくぐってはいるけれども、なんか水が向うに行っていない。私が見た感じでは全く水が流れてないんですけど、そこは何の不備なんですか？

事務局：そこについては、かつて水をきちんと流すためにポンプの仕掛けを作ったこともあったようです。あまり効果がないようで、廃止という状況になっています。

最近サンドの下を潜っている東側の方の入口の所に、木の葉とか小さな枝とかが溜まっていたという状況があったようで、それは指定管理者と一緒に清掃した経緯があります。それをして、若干流れが良くなったというのを私も見ておりますが、それで効果が上がる位の十分な量なのかという辺りはちょっとまだ疑問があるかなと思っていました。

坂本委員：川の水の取水量だけではなく、色んな勾配、石垣の中で良好にいてないんじゃないかなって気がしたんです。そうするとあっちに色んな装置をつけてもあまり効果が出ないんじゃないかなと。

座長：技術的な問題や、経済的な問題なんか色々あると思うんですけども

事務局：1つは、技術的な話もあろうかと思っています。中津川の取水も最後まで自然流下で来ているのではなく、途中サイフォン形状になっていたり、後は東警察署を作る時にそのサイフォン形状の一部がたぶん色々施設を整備するにあたって支障になったのかなと思うんですが、更に途中でポンプアップするような仕掛けを作ったりしている事で、自然流下ではない状況が中津川から池までの経路の中にあります。それらを少し精査・調査してみる必要があるかなと思っていました。

座長：はい。なかなか難しいかなと思いますけれど、少なくとも悪い方向にはいってなくて色々試行錯誤とされているのでしょうか。ぜひ、皆さんはじめ市民の方々より良い情報とか発見とかあったら提供いただくと活用いただけるんじゃないかなと思います。

林委員：資料3の真ん中より上、盛岡城跡公園案内板・サイン整備という所なんですけれども、盛岡城跡公園の拠点としてのサービスセンターの設置の件というのが、今年度から始まっているんですが、これはどういうふうな感じで、少し見えてきたようなことがあればお知らせいただきたいんですが。

事務局：盛岡城跡公園の案内というのにつきましては、実はこの館、もりおか歴史文化館が出来たことによって、盛岡城跡公園に限らず市内全体の案内のひとつの拠点だという風なことにもなっておりますが、如何せん盛岡城跡自体を案内する施設が無いという風なことが前々から言われております。

今回これからお話しする盛岡城跡整備の基本計画の中でやはりそういった施設の整備も必要だろうと、史跡の区域ということがあって色々制限がありますんで、どれぐらいの規模のものがどの場所に作れるか、検討しなければならぬって思っていますが、具体的にどこにどんなものをとというのは今後ということになります。

高橋委員：今ちょうど話しがでたんで、私の意見なんですけれど、観光客とか、市民の目から見た公園の使いやすさ、観光客から見た使いやすさということを考えると、やはりサービスセンターは必要だろうと思います。そこにはやはりトイレも必要だろうし、案内の人も必要だろうし。

もうひとつ考えるのはリスク管理。公園という場所で何か、犯罪ではないですけれどトラブルが起こった場合にどこに行けば助けてくれるのかっていうのは考える必要があると思っていて、公園の中に3箇所ぐらい必要だと私は思っていました。歴史文化館がその1つを担えば良いんだろうと思います。

もうひとつ、基本計画の中で彦御蔵の活用が出てきています。あそこは裏の方の入口になるので、例えば裏側のプレハブも撤去するという話を前にお聞きしたことがあったので、あそこにそういう施設を1つ設けてはいかがか。

そして、公園の入口にまさに案内所を設置する。その3ヶ所ぐらいあれば、非常に観光客にとってもいいと思います。観光客って私が見ていると、我々はこっちが入口って分かっていますが、初めて来た人ってどこが入口かわからないから色んなところから迷って入って来たりして、非常にわからなそうな顔をして歩いているので、3ヶ所ぐらい必要だと思っております。そのなかでリスク管理ってのもひとつ必要だと思いますので、これからそういうのを考える際にはぜひここがあるので1個と決めないで何箇所か。これは意見です。

座長：ぜひ参考にさせていただければと思います。

林委員：観光客に盛岡城跡公園に行って下さいと言った時にどこからどういう風に入ればいいですかって言われるわけですよ。そういったサービスセンターみたいなのがあればそこにいけばマップがありますからそこから歩いて下さいとご案内もできますので。それは非常に、まだまだ観光地として不親切だとなつていうふうに思います。

座長：その辺ぜひご配慮いただき、ハード面、ソフト面、色々あったと思いますけれども検討していただきたいなと思います。

座長：ちょっとお題は違うんですけども、先ほどのパワーポイントのご説明でいくつかのイベントとか明らかに来場者が高まりが見え、これは非常に良い事、喜ばしい事と思います。一方、その中でも特に歴文会館前庭が出来たことにより来場者が増えたっていうのは、これは良いことなんですけれども、逆にそういう場があれば本当は人が来るのかなとも読み取れます。単純にそういう場が足りないから人が来ないのかなとも意外と考えられると思うんですけども、その辺の実態は、感覚的にはどんなもんなんでしょうか。

単純に考えて、人が増えて非常にいい事でまさにそれが現れたんですけど、一方置き換えると場が出来たから増えたというのであれば、場がもともと足りないから人が少なかったのかなとも捉えられると思うんですけども、どうでしょう。

事務局：はい。例えばなんですけど、私共が直接関わっていますもりおか環境緑花まつりの時期は、出来るだけ人が集まる時期っていう事で、毎年桜の時期に合わせて開催するようにしています。桜の時期に露店の方々も広場の周辺に出店されます。私共、露店の方々から一定距離を離れた中に色々な出店の方々とか色々なイベントの場所とかを確保していますので、これがもう少し広ければ更ににぎわいのために、色々、例えば露店の方々にももう少し場所を提供でき、なおかつ我々のイベントにももっと余裕が出来るのかなとは確かに感じます。

この歴史文化館の前庭が出来まして担当からもお話ししました復興食堂とかも合せて開催していただいております。復興食堂さんとかは前庭の方で開催していただきましたが、やはり同じ公園の中といたって広場とは距離がありますので一体のにぎわいがなかなか感じられない状況が現実的にはあります。どこがもう少し広い場所があれば、実際にもっともっと賑わいにつながるような仕掛け作りは可能なのかなとは感じています。いしがきミュージックフェスティバルについてもその前庭ができるまではですね、広場、あるいは教育会館側の方とか、この公園の中での会場となつたんですけども、最近では前庭、芝生広場、あるいは今年度については桜山神社の境内の一部も使ってステージの数を増やしたりしております。それも今座長がお話しのように、広場があればより

活動の場が増え、なおかつイベントも規模が大きく開催できるという要素も十分にあるかなとは思っております。

座長：潜在的、顕在的可能性は秘めてはいるということなのでしょうか。

他にないかありますか？

林委員：商工会議所でも前庭は活用していきまして、去年の夏には商工会が募ってイベントを開催したりしています。広場が出来たということによってイベントとして使えるという認識が広がってきているのかなと思います。

座長：そういう意味では新たに出来たこの広場っていうのはかなり有効に活用されてきている。それでは次の報告事項に入ってよろしいでしょうか。

【説明】

■計画に位置付けられた施策の実施状況について（説明者：三浦文化財主査）

【意見交換】

事務局：すいません、補足させてください。

今担当の方から概要説明させていただきました。15 ページ 16 ページの第Ⅱ期整備計画（平成 35～44 年度）あるいは、長期整備計画の中に、建物あるいは門の復元についてのいくつかの記載がございます。実は私ども、案を作っただすね、市議会全員協議会という会があるんですが、そちらの方にも同様の話をさせていただきました。兼ねてからですね、盛岡城跡の建物、特に天守閣は無いですが天守閣に代わる三重櫓そういった物の復元についての話が何度かあった際に、資料が無くてなかなか復元が難しいという話をこれまでしてきました。今回、私どもの計画の中にそういったことを盛り込み、なおかつ説明させていただいた段階でやれる状況が整ったのか、要は条件整備ができたのかという話をいただきましたが、依然過去の状況から進展している状況ではございません。

ただ、一番ハードルが高いのは本丸にあった三重櫓だと思いますが、例えば二重櫓あるいは門とかであれば、国に対して、文化庁に対してご相談を申し上げるときにハードルが若干低い部分があるんじゃないかと思えます。

今後色々調査をする中で新たな資料の発見道があるんじゃないかということ、希望あるいは意気込み的な意味合いを含めて記載させている事項がありますので、盛り込んだものが全て条件整備が整っているという状況ではないものがあるということをご承知おきいただきたいと思います。

座長：はい、ありがとうございます。

復元については兼ねてより、色んな所から意見があったんですけど、今ご説

明いただきましたけど、ただ行政的に明記されるということはある意味の決意というかですね。ご説明いただいた件でご意見ご質問があればと思います。

林委員：先日中心市街地活性化の話し合いが盛岡商工会議所で行われまして、そのときにもせっかくのお城なんだけどメインとなるものが無い、シンボルとなるものが無いという事がやっぱり話しになりまして、盛岡は観光資源都市としては中継点としては最高のロケーションだけれども、観光都市ではない、観光地ではないと、やっぱりそのためには盛岡城跡公園、お城を中心としたまちづくりというのが沢山出まして、私もその通りだと思って聞いていました。

実は去年、歴女ではないですが熊本城と高知城に行って来まして、それから金沢に行きました。盛岡の石垣は規模まったく違うけれども熊本城と同じくらい美しいなと思って自信を持って帰ってきました。金沢は盛岡と同じで天守閣が作れないんですね。百万石なんですけれども。

ところが、私が40年ぶりに金沢に行って驚いたのが、40年前に行った時は、「ここから先は金沢大学の敷地ですから入ってはいけません」って鉄の扉があってそこから1歩も中に入れなかったんですが、今回もそうだと思って行ったら、すごく立派な門が出来ていて、そこから入っていったら公園になっているんです。それで、そこも天守閣が作れないって言っていたのですが、五十軒長屋っていう白壁のものがわーっと出来てまして、ちゃんとそこ入場券払って中に入れるという素晴らしい施設が、公園整備が出来ていました。

だから、盛岡もやる気になればできるだとそのとき思って帰ってきたんです。金沢がなんでそういうことをやってるかっていうと、14年度末、25年度には新幹線が通るからなんですね。そのためにもガンガンお客さん呼び寄せる為にそういう物を整備して、その他にも、2014年度末までに完成させるお庭も急ピッチで進んでましてですね、やっぱりここはやる気があるなと思って、行ってきたわけなんですね。やっぱり、難しい物はいっぱいあるというお話しは聞いたんですが、やるぞっていう意気込みをもう少し示せば良いのかなと私は思いました、この間商工会議所でもそういう話がでましたので、やっぱりメインとなるモノがこのお城に欲しいなと思って。

座長：やっぱり、その辺のやる気、やる気は行政にばかり任せてられないんですけど、むしろ市民・企業一丸となってやっていかなければいけないと思いますけれど、そのためにも行政の方でお図りいただくと市民の方で意識参加もさらに高まっていくのではないのでしょうか。他にいかがでしょうか。

座長：林さんのお話の中で、市のお城を中心としたまつづくりの方々と商工会議所の方々とで1年に何回か情報交換とかどういうふうにしたいというお話とかあるんでしょうか。

林委員：ないですね。あれはあのお城だけではなく中心市街地などで。もうちょっとど

うやっていかに住民を増やすとか、人々の動線だとかそういったような全体を考える事を話し合うものなんですけれども、でもやっぱり観光というところから見ると、人を集めるためにはやっぱり観光っていう、定住人口だけではなく交友人口も絶対に必要ですから、そういうことを考えたときにお城を中心としたまちづくりっていうのは非常に大事なんじゃないかというお話はこの間結構出ましたですね。

座長：何かいかがでしょうか

坂本委員：今の整備基本計画でパブリックコメントを募集していこうと、市民の方からも募集して計画をやられるということなんですけれども、10年と20年の計画で、10年だったらなんとか、20年なら…と不安になる方々も多いんじゃないかなと思うんですが、なんかこう第Ⅰ期整備計画に大変第Ⅱ期基本計画には難しい問題が沢山あるんですけれども、なにかこう夢みたいというか夢を与えるランドマークとして、ランドマークという言い方も変ですけども、ランドマークとして何かこうすごく難しいモノにしろ、ちょっと提案していけば10年ぐらいは何とか持ちこたえられると思っておりました。夢で実現しなくてもこうしたらという希望でも少し盛りいれていただければと思います。希望だけになるかもしれないですけども。

事務局：10年とは言わず、ぜひ20年30年お元気で、ぜひ。

やはりですね、通常の何らかの整備と違って史跡の中だということで、何かするにはその調査、実はかつて南側の石垣の方を比較的大規模に修理したことがあるんですが、その全体的な史跡の区域の話ですとですね、本気になって遺跡遺構調査というんですか、かつての基礎の跡がどこにあったのかとそういった遺構調査というのが全体的にあまりなされていません。で、何をやるにしてもやはり史跡の区域だという事で、そういった調査が必要だろうと、それからご案内の方がどれくらいいるかあれですが、大規模な災害があった時の避難場所に実は指定になっています。ということはその担当が今々すぐ崩れる心配がないと言いながらもですね、現に石垣が年々はらんでいるというような状況がある場所をですね、やはり避難所に指定されているのは如何かと、来園者の方の安全を確保するような整備が第一だというふうな事を考えておりますので、そういう事でこういうふうなⅠ期Ⅱ期というふうな扱いをさせてもらった経緯がございます。ただ、条件さえ整い尚且つ予算的な裏づけもできれば、けしてⅡ期にあるものはⅡ期でしかしないとそういうふうなつもりはございません。Ⅰ期で可能なものがあれば、それはⅠ期で対応したいなとは思いますが、いずれそんな状況があるという事で、こういった色分けをさせて頂いたという辺りは若干説明させて頂きたいと思います。

座長：10年の所に希望の沢山見えるようなものをぜひというご意見だったと思います。

高橋委員：あの、この活用の計画の際、なるべく全部できるって言ってもらえば安心ですけど、「できる・できない」とは別に行政をはじめ盛岡という町は歴史や環境に対してどのような認識を持っているのかや、歴史や環境に対してこのような態度で臨むんだという、そのような態度を持っているのかっていうのは大事。むしろ全国に発信していくっていう事も大事ではないかなと思いますけれど、より私たちの町の歴史を感じ、どう見ているか考えているか。やれる・やれないはまた別にして態度を発信していく、先ほどランドマークっていう視覚的なものだけじゃなくそういうのがあっても良いんじゃないかなと思います。

先ほどの10年間というのは非常に大事な事だと思っています。史跡の整備計画を考えると色々大変ですけど、やはりお城は史跡という面とランドワークという場合は商業とか観光を中心という、歯止めが難しい。例えば、最近でしたかQRコードとかあったように。

例えばソフトの面で、盛岡の観光地は例えばQRコードみたいなそういうものを読み取ると、例えば歴史の文章が出てくるとか、場所によってバスの時間帯がいっぱい出せるとか、最寄りのおいしい食べ物のマップにも飛べるとか、それはまさに商工会議所なんかに作ってもらっても良いわけだから、市役所だけで完結しようとしなくて、そういう色々求めるものがある所は色んな所もあるわけで色んな商店街でもいいし、あるわけだから市役所だけで完結しようと考えないで他と連携して、ソフトの面で、盛岡の観光地は全国に先駆けてこういうシステムを導入したというのであれば10年でできることだと思います。その中の資料は盛岡なりのやり方で、歴史だけでなく色んな分野の市民とかそういう人達の参加も得て、いろんな情報がそこから飛び込んできて同じ1時間2時間歩いただけでも盛岡の町を知れるようなそういうシステムがある町ということであれば金沢に負けない、財力以外のものでも負けないものができるんじゃないかなと思うので、ぜひ考えていただきたいです

浦田委員：私、子どものときからずっと岩手公園で遊んでいまして、今、私、子どもが小学生で2人おるんですが、まったく岩手公園で遊びに行くことはなくなってしまったんですよ。子どものときは放課後っていうと毎日岩手公園で何かして遊んで、ここでは言えない様な事も。その、遊具等々も含めてですね、子どもそしてその親が遊べるような所が、そういった公園指定、もちろん歴史的の価値もあるんでしょうが、それ以外にも、もうちょっと遊べるような施設としていければ、もうちょっと岩手公園自体が活用されていくのかなとゆうようなことはずっと感じ取っていました。冬もソリをしたり色々遊んでいたんですが、今は子どもが全くいないような、ぜひ、そこも考えていただきたいというか、

もうちょっと賑やかな岩手公園にしていだきたいなというふうに

座長：そういう意味では、今までの議論は観光的な事が中心でしたけれども、むしろ地元の人達が集まる、遊びっていうのも大事なヒント・テーマだと思います。子育ての世代になったら遊ぶっていうのも、ぜひ誘致刺激する上で入れていだきたいというのと、子供達の視点になって考えることも必要ですね。

斎藤委員：何件かお城を見て周ったんですけれども、遠野と三戸かな、お城のてっぺんの方にすごくつまらない建物、全然時代背景を無視した建物が建っていて、これは悲惨だなと思って見て来たんですけども、地元の人も別にそれ作ったからといって喜んでいるわけでもなくて。盛岡もそういうのを迂闊に作ってなくて良かったなと。もちろん国の規定の縛りがあったからという事なんでしょうけれども、そういう意味では、ないのがある場合もあるということも感じました。作るからにはちゃんとしたものを作らないといけないんだなと。秋田の久保田城は中にお土産屋さんもあるし変な物も建ってるし、盛岡は法律を守りすぎているんじゃないかなと思ったけれど、あそこは国の指定じゃないんですね。なので、「あ、勝ったな」と思ってきました。城は駐輪場をきちんと整備して…整備してるって程の大きさなものではないですが、駐輪スペースがあるんですね。盛岡城もあると良いなと思いました。今の所、駅側に4つしかないのかな。あそこは、自転車で中走っちゃいけないから、外に止めなくちゃいけない。そういう所はきちんと整備し方がいいなと。

座長：はい、まあ、勝ち負けの問題じゃないんですが、まあ、勝った方が良いでしょう。大体、時間になりつつありますけれども何かありましたら

高橋委員：さっきからトイレの話で申し訳ないんですけれども、その、トイレとかその設備のことはやろうと思えば、比較的すぐできることだと思うので、この計画とか見るといずれやるというふうになっているようだけど、その中でもメリハリ付けて、例えば今度のお花見までに作るぞとかいうぐらいの、なんて言うんだろう、メリハリがあっても良いんじゃないかなと思います。あとは、先ほどパブリックコメントを取っているという話でしけど、パブリックコメントを出す人ってほとんど限られていて市民の意見を反映していると私は思えないので、これから公園をどうしたいかっていうのはやはり公園を利用している人、例えば朝ラジオ体操に来ている人とか、バードウォッチング来ている人、ここに散歩に来ている保育園の人、町内の人、あとは観光会の人、あとは教育に取り入れようとしている学校とかPTAとか、そういう所にやっぱり聞き取りに行って、公園に対して何か注文、そういうことを積極的に聞かないとパブリックコメントをもって市民の意見を聞いたという事にはならない様な気がしますので、積極的な情報の聞き取りっていうのをぜひやっていだきたいと思っております。観光ガイドの人達は外からの人と常にいるので、電線が邪魔だとかそういうふ

うのを聞いたとか、案内が不備だとか、一番分かっていると思うので、そういう積極的な情報の取入れをお願い致します。

座長: はい、その辺をぜひご協力ご配慮いただければと思います。宜しいでしょうか。だいたい時間になりましたので、あとはその他というところであります。

事務局: ちょっと一点。本日の資料に特段ございません。ひとつだけ、先ほど、もりおか歴史文化館前庭整備の話が出てきてましたが、私共公務員、国とか地方公共団体の土木関係の公務員で組織してます「全日本建設技術協会」という団体がございます。土木関係に功績のあった個人が表彰されたり、あるいは何らかの良い事業について表彰したりというふうな事を毎年1回やっているんですが、この前庭の整備にですね、全建賞いただきました。盛岡でも一つ。八幡町の通りの道路もいただきました。実は同じ年に一つの市が複数頂くというのは全国的にも非常に珍しい事なんです。

私共の前庭、あとはビクトリアロードと言ってますが、中津川の舗装を石畳に直しましたけれども、これと合わせた事業ということでいただきました。受賞の理由はですね、自然に生えてきたような土系舗装をというものを取り入れた事とか、新たに整備して色んなイベントに活用され市民の憩いの場になったという所が評価されて、賞をいただく事ができました。

ただ近くに行って御覧になられた方はおわかりだと思うんですが、実はですね、今、補修して近目で見るとあまり良い感じではないんですけど、この土系舗装はですね、岡山の方の業者さんが開発された方法で、岩手県内の砂土を使って樹脂系の物で固めて舗装にする方法です。北国の方でも、宮城県ですとか秋田、新潟の方で事例があるというふうなことで採用したんですが、多分そちらの方の採用事例はですね、冬になるとそのまま雪に埋もれる状態の場所かなと思うんですが、私共、エレベーターの所がスロープだったりして、丁度1年前に融雪材を撒いた関係があつて、それが結合する薬剤と化学反応を起こして解けてしまったという、そういうふうな状況があつて、近めで見るとあまり良い状況じゃない部分もありますが、いずれそんな表彰をいただきました。実はこの全建賞ですね、確か昭和46年だったと思うんですが地下駐車場もいただいております。およそ40年ぐらいの間をおいて、今度は地表の部分の賞をいただいたと。地下地上合せて、全建賞をいただいたという事をご報告させていただきます。

座長: ありがとうございます。他によろしいでしょうか。なければ、事務局より最後に一言お願いします。

4. 閉会

事務局：本日は、貴重なご意見ありがとうございました。長時間にわたってありがとうございます。本日いただきましたご意見、また、来年もこのような時期に開催することになろうかと思いますが、いずれ、ご意見をふまえ、事業を推進しますとともに、また来年も開催したいと思います。また、よろしくお願ひ致します。どうもありがとうございました。

座長：それでは以上を持ちまして、平成24年度お城を中心としたまちづくり懇話会、以上で閉会します。本日は長時間ありがとうございました。